

授業科目：	日本国憲法		
科目区分：	全学共通教育科目	受講者数：	約 100 名
担当者：	岡田 高嘉（総合教育センター）		
アクティブ・ラーニングのタイプ：	行動型 ・ 参加型 ・ 複合型（※行動型・参加型 AL を組み合わせて実施）		
キーワード（具体的な AL 手法等）：	グループワーク，ディスカッション，プレゼンテーション，ルーブリック		

## 1. 授業の概要と目標

### 【概要】

この授業では、憲法の核である人権保障と統治機構の概要を習得し、現代社会が直面している憲法問題を考察する法的思考能力の一端を養うことを目指す。

授業のおおまかな内容は、憲法を支える立憲主義の思想の歴史的展開を概観し、次いで日本国憲法が規定する基本的人権の具体的内容と統治機構について解説する。

### 【目標】

知識・技能の観点

- 1 憲法の存在意義を説明できる。
- 2 基本的人権の内容を説明できる。
- 3 権力分立の意義と統治構造を説明できる。

思考・判断・表現の観点

- 1 現代の社会問題を憲法と関連づけて考察することができる。
- 2 直観に頼らず、法的な思考を用いて説得力ある論述ができる。

主体性・協働性の観点

- 1 テレビや新聞等で見聞きする社会問題に関心を持つことができる。
- 2 専門分野にとらわれず、幅広い知識と柔軟な思考の大切さを自覚できる。
- 3 他者と協働して課題に取り組むことができる。

## 2. アクティブ・ラーニング導入の具体的な流れ

○科目名「日本国憲法」 第13回 授業テーマ「国会と立法権」

段階	指導過程・学修活動	指導上の留意点(工夫)	評価方法
導入 15分	前時の内容の振り返り(8分) 本時の目標の理解(7分) 板書「国会議員選出に関する課題を理解する」	本時の学修の流れと目標を理解させる。	
展開 60分	基本事項の説明(20分)  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">個人学修</div> 2017年総選挙の資料(政党別の得票率・議席占有率など)から、選挙制度の問題点を考える(10分)  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">グループワーク</div> 2人～4人でグループを形成し、ディスカッション(15分)  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">発表</div> ランダムにマイクを回し、グループの考えや個人の考えを発表してもらい、クラス全体で共有する(15分)	発表してもらうグループを決めて、当該グループの活動に積極的に関与  発表内容を肯定的に受け入れ、決して否定的なことを言わない。適宜補足説明を行う。	

<b>まとめ</b> <b>15分</b>	本時の活動の振り返り(10分) ・投票権保障の趣旨 ・民意を反映しうる選挙制度  レポート課題の説明(5分)	本時の学修全体を振り返らせる。  本時の学びをレポート(文章)で総括させる。	次回に提出されるレポートで評価
--------------------------	--	--	-----------------

### **3. 成果・効果**

グループワークに入る前に、学生が個人的に課題に向き合う時間をとる（個人学修）。その成果を持ち寄り、グループワークを開始する。そうすることでワークは活性化する。ワークシートには、ディスカッションのプロセスと共に、グループとしての結論が記載される。ワークが捗っていないと認められるグループに対しては、積極的に関与するよう心がけている。

アクティブ・ラーニングの導入が奏功したためか、最近では全体的に最終的な成績が向上していると認められる。その理由としては、①課題レポートを多く出し、書く機会を増やしたことで、学生が論述になれたこと、②グループワークなどで学び合いが一定程度機能したこと、これらの結果、総じて③学生の学修時間が増えたことが原因ではないかと推察している。

### **4. 課題**

近年、グループワーク等を活用することが多くなったためか、「総合的な授業満足度」など重要な項目の数値が少し改善したと認められる。また、自由記述欄における否定的なコメントが減って、肯定的なコメントが増えたことは非常に喜ばしいことであり、授業改善へのさらなる動機づけとなる。

学修成果は全体的に少しずつ向上していると認められるものの、ワークシート及び口頭発表から個別具体的に学修成果を評価すれば、まだまだ不十分な点が多いと感じる。ディスカッションが皮相的であるためか、口頭発表ではごくありふれた常識的なことを述べるだけで終わることが多い。課題レポートに関しても、授業の内容がほとんど踏まえていないレポートや、憲法論や法律論ではなく、むき出しの感情論に終始するレポートが存在するのも厳然たる事実である。

事前準備の仕方や授業設計に問題があると考えられるので、引き続き改善を行っていきたい。

### **5. 資料**

科目ルーブリック

「日本国憲法」科目ルーブリック

要素	段階	A+	A	B	C	D	評点
		4点（目標以上）	3点（目標達成）	2点（あと少し）	1点（まだ足りない）	0点	
主体的な学修態度		授業内容や関連する新たな内容に対して興味・関心を持ちながら、重要度の高い社会問題を発見し、その問題解決のために、常に主体的に学び続けることができる。	授業内容や関連する内容に対して興味・関心を持ち、常に主体的に学ぶことができる。	授業内容に対して興味・関心を持ち、主体的に学ぶことができる。	授業内容に興味・関心があるものの、あまり主体的に学ぶことができない。	授業内容に関心がなく、主体的に学ぶことができない。	
関心・意欲（授業の予習・復習、新聞やニュース等を見る時間／週）		4時間以上 (240分以上)	3時間以上 4時間以下 (180分～240分)	2時間以上 3時間以下 (120分～180分)	1時間以上 2時間以下 (60分～120分)	1時間以下 (0分～60分)	
憲法に関する知識		憲法の存在意義、人権保障の概要、統治の仕組み（権力分立）について、詳細かつ明確に説明できる。	憲法の存在意義、人権保障の概要、統治の仕組み（権力分立）について、一通り説明できる。	憲法の存在意義や人権保障の概要を一応説明できる。	憲法とは何か、憲法の存在意義を一応説明できる。	憲法とは何か、憲法の存在意義が説明できない。	
法的思考力		憲法の知識を用いて、冷静かつ論理的に多様な観点から社会問題を分析し、説得力ある形で自分の考えを述べることができる。	憲法の知識を用いて、冷静かつ論理的に様々な社会問題を分析することができる。	社会問題と憲法との関連性に気づくことができ、その問題を憲法の知識を用いて考察することができる。	憲法の知識を用いた思考が時折できるが、基本的に直観思考や個人的な経験に頼っている。社会問題と憲法との関連性がまだつかめない。	直観や個人的な経験でしか物事を考えることができない。	
協働性		グループ（ペア）での話し合いをリードし、話し合いを進展させるような建設的発言を積極的に行っている。	グループ（ペア）での話し合いにおいて積極的に発言を行っている。	グループ（ペア）での話し合いにおいて、時折、関連する発言を行っている。	グループ（ペア）での話し合いに形だけ参加している。	グループ（ペア）での話し合いに参加していない。	

合計 \_\_\_\_\_ 点